

<関連する文献一覧>

1 森林関係

(1) モニタリング・評価に当たり参考にした文献（水源施策前の先行研究）

ア 書籍

石川芳治（2013）,「シカの食害による土壌流亡を防ぐ知識と技術」,サントリービジネスエキスパート（株）水科学研究所・サントリーホールディングス（株）編『「天然水の森」を科学する』
木平勇吉・勝山輝男・田村淳・山根正伸・羽山伸一・糸長 浩司・原慶太郎・谷川潔編（2012）,『丹沢の自然再生』
丹沢大山総合調査団編（2007）,『丹沢大山総合調査学術報告書』

イ マニュアル

神奈川県自然環境保全センター（2007）,『溪畔林整備指針』
神奈川県自然環境保全センター（2008）,『丹沢大山自然再生土壌保全対策マニュアル』

ウ 自然環境保全センター報告 ※神奈川県自然環境保全センター発行（不定期）

小林俊元・末次加代子・山根正伸・永田幸志・溝口暁子（2008）,「2006年度神奈川県ニホンジカ保護管理事業におけるニホンジカ（*Cervus nippon*）個体群調査報告」,『神奈川県自然環境保全センター報告』5,25-37頁
越地正・谷脇徹・田村淳・山根正伸（2008）,「丹沢山地における2007年に大発生したブナハバチ被害とこれまでのブナの衰弱枯死経過」,『神奈川県自然環境保全センター報告』5,3-9頁
永田幸志・入野彰夫・細野正（2009）,「清川村における野生鳥獣による農作物被害に関する調査報告」,『神奈川県自然環境保全センター報告』6,37-46頁
末次加代子・池谷智志・小林俊元・川村優子・永田幸志・山根正伸・溝口暁子（2008）,「2007年度神奈川県ニホンジカ保護管理事業におけるモニタリング報告」,『神奈川県自然環境保全センター報告』6,5-19頁
末次加代子・池谷智志・永田幸志・山根正伸・藤森博英（2011）,「2008年度,2009年度神奈川県ニホンジカ保護管理事業における丹沢山地のニホンジカ個体群調査報告」,『神奈川県自然環境保全センター報告』8,9-26頁
田村淳・中川重年（2008）,「設置後10～15年経過したツリーシェルター試験地と植生保護柵試験地における樹木の生育状況」,『神奈川県自然環境保全センター報告』5,71-78頁
田村淳（2009）,「シカの採食により退行した冷温帯自然林における植生保護柵による林床植生の回復」,『神奈川県自然環境保全センター報告』7,1-108頁
谷脇徹・田村淳・藤澤示弘・齋藤央嗣・越地正（2008）,「丹沢山地において2006年に落下したブナ種子の品質」,『神奈川県自然環境保全センター報告』5,79-84頁
内山佳美・相原敬次・飯田勝彦・板寺一洋（2009）,「 $\delta^{18}\text{O}$ をトレーサーとした短期流出特性把握におけるサンプリング方法の検討」,『神奈川県自然環境保全センター報告』6,63-68頁

エ 論文

石川芳治・内山佳美（2009）,「丹沢堂平におけるシカによる林床植生衰退地における土壌侵食の実態解明と対策工の開発」,『砂防学会誌』第62巻,第4号
初 磊・石川芳治・白木克繁・若原妙子・内山佳美（2010）,「丹沢堂平地区のシカによる林床植生衰退地における林床合計被覆率と土壌浸食量の関係」,『日本林学会誌』92,261-268頁
若原妙子・石川芳治・白木克繁・戸田浩人・宮貴大・片岡史子・鈴木雅一・内山佳美（2008）,「ブナ林の林床植生衰退地におけるリター堆積量と土壌侵食量の季節変化－丹沢山地堂平地区

のシカによる影響」,『日本林学会誌』90,378-385 頁

(2) モニタリングから得られた情報や知見が掲載されている文献

ア 書籍

- Gomi T, Oohira M, Hiraoka M, Miyata S, and Uchiyama Y. (2022) “Impact of Sika Deer on Soil Properties and Erosion, In Sika Deer”, Life History Plasticity and Management, 399-413
- Nagata K, Tamura A. (2022) “Deer management in the Tanzawa Mountains, Kanagawa Prefecture, In Sika Deer”, Life History Plasticity and Management ,569-588
- 大平充・五味高志・内山佳美 (2021), 「シカの食害が山地流域からの流出土砂量に及ぼす影響 神奈川県丹沢山大洞沢観測所における水と土砂動態観測」, 公益社団法人砂防学会出版プロジェクト委員会編, 『砂防の観測の現場を訪ねて2～山地河川内の複雑な土砂の動きを知る～』, 公益社団法人砂防学会, 125-133 頁
- 田村淳 (2017), 「丹沢のシカ総合管理」, 梶光一・飯島勇人編, 『日本のシカ』, 東京大学出版会, 183-202 頁
- 田村淳 (2018) 「シダ植物」(分担執筆), 神奈川県植物誌調査会編, 『神奈川県植物誌 2018』, 神奈川県植物誌調査会, 17-191 頁
- Tamura A. (2022) “Effect of different periods of chronic deer herbivory on both tall forbs and soil seed banks following deer exclusions in a damp beech forest, In Sika Deer”, Life History Plasticity and Management ,447-461
- 田中徳久・勝山輝男・秋山幸也・大西亘・田村淳・山本薫・石田祐子 (2022), 「維管束植物」, 神奈川県環境農政局緑政部自然環境保全課・神奈川県立生命の星・地球博物館編, 『神奈川県レッドデータブック 2022 植物編』, 44-326 頁
- 内山佳美 (2014), 「神奈川県の参加税制、順応的管理による緑のダムの保全」, 蔵治光一郎・保屋野初子編, 『緑のダムの科学 減災・森林・水循環』, 築地書館, 154-168 頁

イ マニュアル、図鑑等

- 神奈川県自然環境保全センター (2016), 『丹沢の希少植物図鑑—希少植物の保護に向けて—』
- 神奈川県自然環境保全センター (2016), 『神奈川県広葉樹実生図鑑』 改訂第2版
- 神奈川県自然環境保全センター (2016), 『神奈川県シカ不嗜好性植物図鑑』
- 神奈川県自然環境保全センター (2017), 『丹沢ブナ林再生指針』
- 神奈川県自然環境保全センター (2017), 『溪畔林整備の手引き』

ウ 自然環境保全センター報告 ※神奈川県自然環境保全センター発行 (不定期)

・特集号

- 神奈川県自然環境保全センター (2012), 「丹沢山地のブナ林衰退研究の最前線」, 『神奈川県自然環境保全センター報告』 第9号, 140 頁
- 神奈川県自然環境保全センター (2013), 「森林における水環境モニタリングの始動」, 『神奈川県自然環境保全センター報告』 第10号, 287 頁
- 神奈川県自然環境保全センター (2013), 「第2次神奈川県ニホンジカ保護管理計画の取組みとその成果」, 『神奈川県自然環境保全センター報告』 第11号, 93 頁
- 神奈川県自然環境保全センター (2016), 「丹沢山地のブナ林再生に向けて～衰退原因の解明と再生技術の開発～」, 『神奈川県自然環境保全センター報告』 第14号, 92 頁
- 神奈川県自然環境保全センター (2024), 「丹沢山地のブナ林再生に向けて～衰退要因モニタリン

- グと保全・再生対策の動向～」、『神奈川県自然環境保全センター報告』第18号,90頁
- ・特集号以外の個別報告の掲載
- 安部豊・内山佳美（2023）,「流出特性に対する岩盤地下水挙動の影響：丹沢山地西部花崗閃緑岩源流域における研究事例」,『神奈川県自然環境保全センター報告』17,85-94頁
- 馬場重尚・羽太博樹・前嶋真一・藤森博英（2015）,「2014年2月大雪後のニホンジカの死体目撃情報の報告」,『神奈川県自然環境保全センター報告』13,57-59頁
- 石川烈・永井広野・永田幸志・町田直樹・石川信吾（2023）,「神奈川県ニホンジカ管理計画における生息状況モニタリング結果」,『神奈川県自然環境保全センター報告』17,17-24頁
- 姜兆文・永田幸志・羽根田貴行・永井広野・町田直樹・今井俊輔・山田雄作（2023）,「丹沢山地の鳥獣保護区に生息するニホンジカの行動特性」,『神奈川県自然環境保全センター報告』17,35-49頁
- 片瀬秀高・久保田修映・高橋聖生・羽太博樹・藤森博英・馬場重尚（2014）,「ワイルドライフレンジャーの取り組み」,『神奈川県自然環境保全センター報告』12,35-41頁
- 片瀬英高・村田成文・丸智明・藤井秀仁・大岩幸太・國松竜太郎・永田幸志・石川信吾・町田直樹（2020）,「ワイルドライフレンジャーの取り組み」,『神奈川県自然環境保全センター報告』16,9-16頁
- 永井広野・小松ゆりな・西岡美保子・石川烈・永田幸志・町田直樹・石川信吾（2023）,「神奈川県ニホンジカ管理計画に基づく管理捕獲個体の分析結果」,『神奈川県自然環境保全センター報告』17,25-34頁
- 永田幸志・田村淳（2014）,「丹沢山地におけるササ3種の2013年の開花記録」,『神奈川県自然環境保全センター報告』13,43-45頁
- 永田幸志・田村淳（2015）,「丹沢山地におけるササ3種の2014年の開花記録」,『神奈川県自然環境保全センター報告』13,65-68頁
- 永田幸志・亀山明子（2018）,「猟区を活用した狩猟者育成手法検討の取組」,『神奈川県自然環境保全センター報告』15,37-46頁
- 永田幸志・片瀬英高・丸智明（2018）,「鉄含有誘引餌によるニホンジカの誘引試験結果」,『神奈川県自然環境保全センター報告』15,47-50頁
- 永田幸志・谷川潔・町田直樹（2018）,「丹沢山地におけるニホンカモシカの生息密度」,『神奈川県自然環境保全センター報告』15,51-53頁
- 永田幸志・田村淳（2018）,「丹沢山地におけるササ3種の2016年の開花記録」,『神奈川県自然環境保全センター報告』15,55-58頁
- 永田幸志・町田直樹・丸智明（2020）,「丹沢山地札掛地区における自動撮影カメラによるニホンジカ（*Cervus nippon*）撮影記録」,『神奈川県自然環境保全センター報告』16,21-25頁
- 永田幸志・栗林弘樹・田村淳・小林俊元・入野彰夫（2023）,「神奈川県のニホンジカ保護管理について～管理計画策定と植生回復の取組の経緯～」,『神奈川県自然環境保全センター報告』17,51-60頁
- 永田幸志・永井広野（2023）,「丹沢山地におけるニホンカモシカの生息密度（2017-2021年度）」,『神奈川県自然環境保全センター報告』17,77-79頁
- 永田幸志・永井広野・町田直樹（2023）,「箱根山地におけるニホンカモシカの撮影記録」,『神奈川県自然環境保全センター報告』17,81-83頁
- 大石圭太・山根正伸・谷脇徹・田村淳（2023）,「神奈川県の水源林整備地における中大型哺乳類の種構成とニホンジカの生息状況」,『神奈川県自然環境保全センター報告』17,61-71頁

- 大石圭太・雨宮有・山根正伸（2023）,「丹沢山地堂平地区のブナ林におけるニホンジカの採餌行動と中大型哺乳類の撮影記録」,『神奈川県自然環境保全センター報告』17,73-76 頁
- 谷脇徹・永田幸志・鈴木透・姜兆文・山田雄作・山根正伸（2015）,「植生保護柵を改修した囲いわなによるニホンジカの捕獲」,『神奈川県自然環境保全センター報告』13,15-24 頁
- 内山佳美・山根正伸（2008）,「森林における水環境モニタリングの調査設計—大洞沢における検討事例—」,『神奈川県自然環境保全センター報告』5,15-24 頁
- 内山佳美・中嶋伸行・横山尚秀・山中慶久（2014）,「東丹沢大洞沢における治山事業による水文観測の記録」,『神奈川県自然環境保全センター報告』12,17-26 頁
- 内山佳美・横山尚秀・三橋正敏（2015）,「西丹沢ヌタノ沢の流出特性」,『神奈川県自然環境保全センター報告』13,39-47 頁
- 内山佳美・横山尚秀・三橋正敏・島田武憲（2018）,「西丹沢ヌタノ沢における濁度計による浮遊土砂観測結果」,『神奈川県自然環境保全センター報告』15,29-35 頁
- 内山佳美・入野彰夫・大内一郎・丸井祐二（2023）,「林床植生の植被率と土壌侵食防止機能の指標となる林床合計被覆率との関係」,『神奈川県自然環境保全センター報告』17,1-6 頁
- 山中慶久（2015）,「1970年代の自然保護の機運の高まりから平成9年（1997年）の水源の森林づくり事業開始までの神奈川県の森林・林業政策の展開」,『神奈川県自然環境保全センター報告』13,49-55 頁
- 山根正伸・田村淳（2023）,「水源林整備地における植生と林分構造の現状：水源林の林分構造調査の1巡目調査結果」,『神奈川県自然環境保全センター報告』17,7-15 頁
- 横山尚秀・内山佳美・三橋正敏（2014）,「東大洞沢の水文地質と流出機構」,『神奈川県自然環境保全センター報告』12,1-16 頁
- 横山尚秀・内山佳美・三橋正敏（2015）,「フチジリ沢・クラミ沢流域（箱根外輪山北東麓）の水文地質について」,『神奈川県自然環境保全センター報告』13,25-37 頁
- 横山尚秀・内山佳美・三橋正敏・丸山範明・板寺一洋（2018）,「県西部の4試験流域における水循環機構解明のための溪流調査」,『神奈川県自然環境保全センター報告』15,11-28 頁

エ 一般向け雑誌等

・特集号

一般社団法人 日本森林学会(2013),「ブナ林の衰退—丹沢山地で起きていること—」,『森林科学』第67号

・特集号以外の掲載

安部豊・内山佳美（2022）,「広域の地下水流動を把握する—自治体と地球研の連携研究による地域貢献—」,陀安一郎・申基澈・鷹野真也編,『同位体環境学がえがく世界：2022年版』

谷脇徹（2015）,「丹沢山地におけるブナハバチの大発生と防除法の開発」,『森林防疫』64(5),165-173 頁

谷脇徹・猪野正明・鶴田英人・相原敬次・岡田充弘（2017）,「ブナハバチ防除のためにブナ成木に樹幹注入したジノテフランの葉内濃度の季節変化」,『森林防疫』66(2),42-47 頁

内山佳美（2023）,「神奈川県の参加型税制による水源林再生と水源かん養機能評価」,『森林技術』975,8-11 頁

オ 査読付き論文等

(ア) ブナ林再生（丹沢大山の保全・再生対策の関係）

○大気環境

齋藤正彦・若松伸司・岡崎友紀代・堀越信治・山根正伸・相原敬次（2012）,「数値モデルを用

いた丹沢山地のオゾンの挙動解析」, 『大気環境学会誌』 47,217-230 頁
斎藤正彦・若松伸司・相原敬次 (2013), 「丹沢山地における樹木のオゾン取込み量の推定」,
『大気環境学会誌』 48,251-259 頁

○シカと植生

佐藤司郎・鈴木牧・谷脇徹・田村淳 (2018), 「丹沢山地におけるシカの増加がオサムシ科甲虫に及ぼす間接的影響」, 『日本森林学会誌』 100,141-148 頁
田村淳 (2013), 「シカによりスズタケが退行したブナ林において植生保護柵の設置年の差異が林床植生の回復と樹木の更新に及ぼす影響」, 『日本森林学会誌』 95,8-14 頁
田村淳 (2016), 「丹沢山地の自然環境保全の側面から見た森林の諸問題と適正管理に向けての課題—シカの増加等から見えてくる都市近郊林の諸問題」, 『環境情報科学』 45(2), 52-56 頁
Tamura A. (2016) “Potential of soil seed banks in the ecological restoration of overgrazed floor vegetation in a cool-temperate old-growth damp forest in eastern Japan”, *Journal of Forest Research* 21,43-56
Tamura A.(2019) “Potential of soil seed banks for vegetation recovery following deer exclusions under different periods of chronic herbivory in a beech forest in eastern Japan”, *Ecological Research* 34,160-170
田村淳 (2019), 「丹沢山地の天然林におけるシカ柵研究からわかってきた植生回復の限界と期待」, 『水利科学』 367,134-146 頁
Tamura A.(2020) “Effects of 16-year deer exclusion on the forbs and tree saplings in a beech (*Fagus crenata*) forest degraded by sika deer in eastern Japan”, *Natural Areas Journal* 40(1), 4-10
Tamura A.(2021) “Potential for soil seed banks to drive vegetation changes in windswept Sasa grasslands in eastern Japan”, *Journal of Forest Research* 26(1), 75-80

○ブナハバチ

谷脇徹・渡辺恭平 (2012), 「神奈川県丹沢山天王寺尾根で確認されたブナハバチの捕食寄生蜂相」, 『昆蟲 (ニューシリーズ)』 15,2-14 頁
谷脇徹・山根正伸・田村淳・相原敬次・越地正・谷晋・伴野英雄・山上明 (2013), 「ブナハバチ雌成虫の発生とブナ展葉の同時性が被食量に及ぼす影響」, 『昆蟲 (ニューシリーズ)』 16,218-224 頁
谷脇徹 (2013), 「衝突板トラップの色によるブナハバチ成虫の誘引効果の差異」, 『昆蟲 (ニューシリーズ)』 16,159-165 頁
谷脇徹 (2014), 「ブナハバチ成虫の生存と卵生産に及ぼす温度および食物の影響」, 『昆蟲 (ニューシリーズ)』 17,1-7 頁
谷脇徹 (2014), 「ブナハバチ成虫で観察されたブナ樹液摂取行動」, 『環動昆』 25,147-151 頁
谷脇徹・渡辺恭平 (2014), 「捕食寄生蜂 2 種のブナハバチ繭への寄生生態」, 『昆蟲 (ニューシリーズ)』 17,131-134 頁
谷脇徹・山根正伸・伴野英雄・谷晋・山上明 (2014), 「ブナハバチの繭形成期の死亡に及ぼす土壌条件の影響」, 『環動昆』 25,75-80 頁
谷脇徹・猪野正明・鶴田英人・齋藤央嗣・相原敬次・岡田充弘 (2015), 「ブナ若木へのジノテフラン樹幹注入によるブナハバチの防除効果」, 『樹木医学研究』 19,139-148 頁
Taniwaki T, Tamura A, Watanabe K. (2020) “Species richness, abundance and diversity of ichneumonid wasps in Japanese beech forests impacted by sika deer and sawfly herbivory”,

Entomological Science 23(4), 393-404

Taniwaki T, Watanabe K, Komine H, Tochigi K, Yamane M, Koike S. (2022) “Response of specialist and generalist predators to nonprogressive annual fluctuations in herbivorous insect populations”, *Biological Control* 165, 104810

Watanabe K, Taniwaki T, Kasparyan D. (2015) “*Tanzawana flavomaculata* (*Hymenoptera, Ichneumonidae, Ctenopelmatinae*), a new genus and species of parasitoid of *Fagineura crenativora* (*Tenthredinidae, Nematinae*), a serious pest of beech tree”, *Zootaxa* 4040, 236-242

Watanabe K, Taniwaki T. (2015) “Review of the Genera *Atophotrophos* Cushman, 1940, *Cladeutes*, Townes, 1969, *Hercus* Townes, 1969, and *Neliopisthus* Thomson, 1883, from Japan (*Hymenoptera: Ichneumonidae: Tryphoninae*)”, *Japanese Journal of Systematic Entomology* 21, 69-75

Watanabe K, Taniwaki T, Kasparyan DR. (2018) “Revision of the tryphonine parasitoids (*Hymenoptera: Ichneumonidae*) of a beech sawfly, *Fagineura crenativora* Vikberg & Zinovjev (*Hymenoptera: Tenthredinidae: Nematinae*)”, *Entomological Science* 21(4), 433-446

Watanabe K, Taniwaki T. (2018) “Taxonomic study of the genera *Aptesis* Forster, 1850, and *Javra* Cameron, 1903 (*Hymenoptera, Ichneumonidae, Cryptinae*) associated with *Fagineura crenativora* (*Hymenoptera, Tenthredinidae*), with description of a new species”, *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)* 47, 73-83 (査読なし)

○水ストレス

上田正文・谷脇徹・齋藤央嗣・相原敬次 (2019), 「昆虫食害を模した摘葉と水分条件がブナの当年枝木部の水分通道組織構造に与える影響」, 『日本森林学会誌』 101(2), 76-81 頁

植村恭子・上田正文・谷脇徹・齋藤央嗣・相原敬次 (2019), 「摘葉が圃場に生育する中型ブナ (*Fagus crenata* Blume) の当年枝木部の水分通道組織構造に与える影響」, 『日本緑化工学会誌』 45(1), 91-96 頁

○希少種

Koike S, Nakashita R, Naganawa K, Koyama M, Tamura A. (2013) “Changes in diet of a small, isolated bear population over time”, *Journal of Mammalogy* 94(2), 361-368

田村淳・中西のりこ・赤谷美穂・石川信吾・伊藤一誠・町田直樹・永井広野・野辺陽子・長澤展子 (2022), 「丹沢山地でシカの採食圧を 20 年以上受けた後に設置された植生保護柵の内外的における絶滅危惧種の多年草の回復」, 『保全生態学研究』 27, 263-273 頁

田村淳・赤谷美穂 (2022), 「丹沢山地と道志山地における絶滅危惧種ヤシャイノデ (*Polystichum neolobatum* Nakai) の野生個体群と植え戻し個体のモニタリング」, 『保全生態学研究』 27, 297-304 頁

○土壌保全

畢力格図・石川芳治・白木克繁・若原妙子・海虎・内山佳美 (2013), 「丹沢堂平地区のシカによる林床植生衰退地における降雨量, 降雨係数及び地表流出量と土壌侵食量との関係」, 『日本森林学会誌』 95, 163-172 頁

海虎・石川芳治・白木克繁・若原妙子・畢力格図・内山佳美 (2012), 「ブナ林における林床合計被覆率の変化が地表流出率に与える影響」, 『日本森林学会誌』 94, 167-174 頁

飯野貴美子・石川芳治・白木克繁・若原妙子・内山佳美・宮本尚子 (2019), 「シカの採食圧により林床植生被覆率が異なるブナ林斜面におけるリター移動機構」, 『水文・水資源学会誌』 Vol.32, No.4, 170-181 頁

孫金勝・石川芳治・白木克繁・若原妙子・内山佳美 (2020), 「シカの食圧により林床植生が衰退したブナ林斜面における各種保全工の土壌侵食防止の長期的な効果」, 『砂防学会誌』, Vol.73, No.1, 15-24 頁

(イ) 森林整備・管理 (水源の森林づくり事業の推進、水環境モニタリングの関連)

○森林整備・シカ・植生

Ohira M, Gomi T, Iwai A, Hiraoka M, Uchiyama Y. (2022) “Ecological resilience of physical plant–soil feedback to chronic deer herbivory: Slow, partial, but functional recovery”, *Ecological Applications*, Volume 32, Issue 7

Tamura A, Yamane M. (2017) “ Response of understory vegetation over 10 years after thinning in an old-growth cedar and cypress plantation overgrazed by sika deer in eastern Japan”, *Forest Ecosystems* 4(1), 1-10

田村淳・上山真平・松崎加奈恵・鈴木哲平・藤森博英 (2016), 「シカの採食圧を受けてきた溪畔域の針葉樹人工林での広葉樹の更新に対する受光伐と植生保護柵の効果」, 『日本森林学会誌』 98, 279-285 頁

田村淳 (2014), 「高齢級スギ・ヒノキ人工林の林床植被の多寡が択伐後の高木性樹木稚樹の更新に及ぼす影響」, 『日本森林学会誌』 96, 333-341 頁

Tamura A, Nakajima K. (2017) “Effects of 10 years of fencing under a gap and closed canopy on the regeneration of tree seedlings in an old-growth Japanese fir (*Abies firma*) forest overbrowsed by sika deer”, *Journal of Forest Research* 22, 224-232

○森林水文

Abe Y, Uchiyama Y, Saito M, Ohira M, Yokoyama T. (2020) “Effects of bedrock groundwater dynamics on runoff generation: a case study on granodiorite headwater catchments, western Tanzawa Mountains, Japan”, *Hydrological Research Letters*, 14(1), 62-67

Egusa T, Kumagai T, Oda T, Gomi T, Ohte N. (2018) “Contrasting Patterns in the Decrease of Spatial Variability With Increasing Catchment Area Between Stream Discharge and Water Chemistry”, *Water Resources Research*, 55, 7419–7435

Egusa T, Oda T, Sato T, Kumagai T. (2021) “ Estimation of sub-annual inter-catchment groundwater flow using short-term water balance method”, *Hydrological Processes*, 35(9), e14368

Fujime N, Kumagai T, Egusa T, Momiyama H, Uchiyama Y. (2021) “Importance of calibration in determining forest stand transpiration using the thermal dissipation method”, *Agricultural and Forest Meteorology*, 301–302, 108356

平口昌樹・中島集介・白木克繁・内山佳美 (2023), 「電子吊りはかり及びメスシリンダーを用いた樹冠通過雨ボトル水量計測における精度検証」, 『水文・水資源学会誌』, 36 巻, 3 号, 194-199 頁

Momiyama H, Kumagai T, Egusa T. (2019) “Reproducing monthly evapotranspiration from a coniferous plantation watershed in Japan”, *Journal of Forest Research* 2019, Vol. 24, No. 3, 197–200

Momiyama H, Kumagai T, Egusa T. (2021) “Model analysis of forest thinning impacts on the water resources during hydrological drought periods”, *Forest Ecology and Management*, 499, 119593

Oda T, Suzuki M, Egusa T, Uchiyama Y. (2013) “Effect of bedrock flow on catchment rainfall-

- runoff characteristics and the water balance in forested catchments in Tanzawa mountains, Japan”, *Hydrological Processes*, Volume 27, Issue 26, 3864-3872
- Sato T, Oda T, Igarashi Y, Suzuki M, Uchiyama Y. (2012) “Circumferential sap flow variation in the trunks of Japanese cedar and cypress”, *Hydrological Research Letters* 6,104–108
- 白木克繁・金澤悠花・工藤司・片岡宏介・ウジムセ・内山佳美 (2020), 「簡易架線集材による森林整備が流出浮遊土砂量と流域流出量に与える影響」, 『水文・水資源学会誌』 Vol.33, No.2,47-55 頁
- Shiraki K, Kawana S, Tsujinaka H, Ariyoshi S, Uchiyama Y. (2022) “A preliminary observation for quantifying detached stemflow”, *Hydrological Research Letters* 16(1), 1–6
- 白木克繁・辻中晴菜・有吉桜・内山佳美 (2023), 「スギ人工林における樹幹離脱流由来の滴下雨が樹木近傍の樹冠通過雨に与える影響」, 『日本森林学会誌』, 105 巻, 4 号, 129-135 頁
- 土壌侵食、土砂流出
- 五味高志・小田智基・鈴木雅一・平岡真合乃・宮田秀介・内山佳美・山根正伸 (2012), 「丹沢山大洞沢観測流域における水と土砂動態観測」, 『砂防学会誌』第 65 巻,第 1 号,1-2 頁
- 平岡真合乃・五味高志・内山佳美 (2013), 「インターバルカメラを用いた連続観測による山地斜面の林床被覆の経時変化の把握」, 『砂防学会誌』, Vol.66 No.1,42-48 頁
- Hiraoka M, Gomi T, Oda T, Egusa T, Uchiyama Y. (2015) “Responses of bed loaded yields from a forested headwater catchment in the eastern Tanzawa Mountains, Japan”, *Hydrological Research Letters* 9(3), 41-46
- 仁平啓介・平岡真合乃・五味高志・内山佳美 (2016), 「低高度写真撮影による山地溪流の流路地形計測」, 『砂防学会誌』,第 69 巻,第 3 号,38-42 頁
- シカ関係
- 田村淳 (2013), 「神奈川県丹沢山地におけるシカ問題の歴史と森林保全対策」, 『水利科学』 57(4), 52-66 頁
- 森林生態系
- 遠藤幸子・成瀬真理生・近藤博史・田村淳 (2020), 「スギ・ヒノキ人工林を利用する確率の高い鳥類種の推定」, 『日本森林学会誌』 102,147-156 頁
- Ito M, Sakai H, Tamura A.(2023) “ Descriptions of two new species of the genus *Amyntas* (*Annelida: Oligochaeta: Megascolecidae*) and a new record of *Amyntas righii* Hong & James, 2001 from Kanagawa Prefecture, Central Japan”, *Edaphologia* 112, 9–16

(3) 神奈川県自然環境保全センターの研究情報

- ア 神奈川県自然環境保全センターの「研究開発・データベース」トップページ
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/f4y/04kenkyu/top.html>
- イ 神奈川県自然環境保全センター報告 ※研究報告、不定期発行
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/f4y/kankoubutsu/top.html>
- ウ 対照流域法等による森林の水源かん養機能調査 トップページ
https://www.agri-kanagawa.jp/sinrinken/web_taisho/mizu_top.html
- ・かながわの水源林について
https://www.agri-kanagawa.jp/sinrinken/web_taisho/mizu_suigen_index.html
 - ・アトラス水源林－水源地域の山地と森林・自然環境の特徴－

https://www.agri-kanagawa.jp/sinrinken/web_taisho/sanchi/sanchi.html

- 森林の水源かん養機能と森林管理（解説）

https://www.agri-kanagawa.jp/sinrinken/web_taisho/mizu_suigen_kinou.html

2 河川・地下水関係

(1) センター報告

- 長谷部勇太・白子智康 (2020) 「指標種に着目した環境 DNA の基礎研究」,令和 2 年版 〈2020〉『神奈川県環境科学センター研究報告』第 43 号,28-36 頁
- 秀平敦子・池田佳世・井上充 (2014) 「相模湖水中の低濃度リンの直接浄化に関する検討」,平成 26 年版 〈2014〉『神奈川県環境科学センター研究報告』第 37 号,18-23 頁
- 秀平敦子・関谷雅彦・高坂和彦 (2016) 「相模湖上流地域における炭素繊維を用いたリン浄化に関する検討」,平成 28 年版 〈2016〉『神奈川県環境科学センター研究報告』第 39 号,26-31 頁
- 飯田信行 (2017) 「序列化手法を用いた水源河川における底生動物の群集解析」,平成 29 年版 〈2017〉『神奈川県環境科学センター研究報告』第 40 号,9-13 頁
- 池田佳世・齋藤和久 (2011) 「平成 21 年度水源河川のモニタリング調査結果」,平成 23 年版 〈2011〉『神奈川県環境科学センター研究報告』第 34 号,21-27 頁
- 池田佳世・齋藤和久 (2012) 「第 1 期 5 か年における水源河川のモニタリング調査」,平成 24 年版 〈2012〉『神奈川県環境科学センター研究報告』第 35 号,20-27 頁
- 井上充・渡邊久典 (2008) 「水源地域の汚染地下水の浄化実験」,平成 20 年版 〈2008〉『神奈川県環境科学センター研究報告』第 31 号,66-75 頁
- 中山 駿一・長谷部 勇太 (2022) 「環境 DNA を用いた丹沢山地におけるサンショウウオの分布調査手法の開発」,令和 4 年版 〈2022〉『神奈川県環境科学センター研究報告』第 45 号,29-34 頁
- 武田麻由子・小松宏昭 (2009) 「相模川上流域における大気由来の窒素負荷量調査」,平成 21 年版 〈2009〉『神奈川県環境科学センター研究報告』第 32 号,62-69 頁
- 渡邊久典・田所正晴・池田佳世・井上充 (2012) 「ダム湖集水域における高度処理型浄化槽整備の効果検証」,平成 24 年版 〈2012〉『神奈川県環境科学センター研究報告』第 35 号,8-19 頁

(2) 学会誌他

- 長谷部 勇太・白子 智康 (2019) 「サンショウウオ類の分布調査における捕獲調査と環境 DNA 調査の比較」,『全国環境研会誌』44 巻 2 号,29-35 頁
- 長谷部勇太・武田麻由子・中山駿一・菊池宏海・白子智康 (2020) 「サンショウウオ類分布調査における環境 DNA 活用のための基礎的検討」,『全国環境研会誌』45 巻 1 号,38-44 頁
- 齋藤和久・勝呂尚之 (2010) 「神奈川県の水源河川における水生生物の現状と水源環境保全・再生に向けた取組」,『水環境学会誌』33(A),337-341 頁
- 齋藤和久・金子裕明・勝呂尚之 (2010) 「相模川水系の魚類相」,『神奈川自然誌資料』(31),59-68 頁
- 齋藤和久・金子裕明・勝呂尚之 (2012) 「酒匂川水系の魚類相」,『神奈川自然誌資料』(33),103-112 頁
- 鳥居高明・齋藤和久・樋村正雄 (2011) 「相模川水系の底生動物相および底生動物群集を用いた水域の類型化」,『神奈川自然誌資料』(32),91-100 頁
- 鳥居高明・齋藤和久・山西陽子 (2012) 「相模川水系・酒匂川水系における水生昆虫 3 属の流程分布」,『陸水生物学報』27,49-62 頁
- 鳥居高明・齋藤和久・樋村正雄 (2012) 「酒匂川水系の底生動物相および底生動物群集を用いた水域の類型化」,『神奈川自然誌資料』(33),55-64 頁

3 制度関係

- 『財政と公共政策』編集委員会(2012),特集『水と森の財政学』(日本経済評論社刊) 出版記念ワークショップ: '水と森' の財政・公共政策・ガバナンス, 『財政と公共政策』第34巻第2号
- 特集「水源／森林環境税の成果と展望」, 『財政と公共政策』第52号, 2012年
- 江指茂樹(2021), 「神奈川の水源としての丹沢とその保全: 行政の取り組みと県民協働」, 『水環境学会誌』44(9), 306-310頁
- 藤田香(2005), 「持続可能な流域管理のための費用負担と参加—日本における水源環境税の導入過程からの示唆」, 『アジア研ワールド・トレンド』122, 31-35頁
- 藤田香(2008), 「流域ガバナンスのための費用負担と参加—日本における森林・水源環境税の課題」, 大塚健司編『流域ガバナンス—中国・日本の課題と国際協力の展望—』アジア研選書 No.9, アジア経済研究所, 173-213頁
- 藤田香(2009), 「流域ガバナンスと水源環境保全」, 諸富徹編著『環境政策のポリシー・ミックス』, ミネルヴァ書房
- 石倉研(2014), 「緑のダムを支える森林環境税の成果と課題」, 蔵治光一郎・保屋野初子編『緑のダムの科学』, 築地書館, 141-153頁
- 石倉研(2015), 「神奈川県における水源環境保全・再生の取り組み」, 『森林科学』75号, 7-10頁
- 石崎涼子(2002), 自治体林政の施策形成過程—神奈川県を事例として—, 『林業経済研究』48巻3号, 17-26頁
- 石崎涼子(2004), 「都道府県による施策形成と森林管理: 神奈川県と三重県を事例として」, 『林業経済研究』50(1), 27-38頁
- 石崎涼子(2010), 「水源林保全における費用分担の系譜からみた森林環境税」, 『水利科学』316号, 46-65頁
- 石崎涼子(2012), 「森林政策における政府間財政関係」, 諸富徹・沼尾波子編『水と森の財政学』, 日本経済評論社, 17-42頁
- 金澤史男(2003), 「水源環境税への取組と分権型自治体財政」神奈川県監修『参加型税制・かながわの挑戦』, 第一法規, 186-192頁
- 久保慶明(2009), 「地方政治の対立軸と知事—議会間関係—神奈川県水源環境保全税を事例として—」, 『選挙研究』25巻1号, 47-60頁
- 栗山浩一・寺脇拓・吉田謙太郎・興梠克久(2006), 「コンジョイント分析による森林ゾーニング政策の評価」, 『林業経済研究』52(2), 17-22頁
- 栗山浩一(2016), 「自然資源管理における市民の視点」, 『林業経済研究』62巻1号, 28-39頁
- 宮永健太郎(2010), 「環境ガバナンス組織の構築・運用と地方自治体への影響—水源環境保全・再生かながわ県民会議の事例から」, 『環境経済・政策研究』3巻2号, 1-12頁
- 宮永健太郎(2012), 「水・森をめぐる公共政策とそのガバナンス」 諸富徹・沼尾波子編『水と森の財政学』, 日本経済評論社, 159-181頁
- 沼尾波子(2010), 「自治体の独自課税を通じた森林保全の財源調達とその課題: 『かながわ水源環境保全税』の事例を中心に」, 『日本大学経済学部経済科学研究所紀要』40, 109-119頁
- 沼尾波子(2012), 「水源地域における水資源の保全と財政負担」, 諸富徹・沼尾波子編『水と森の財政学』, 日本経済評論社, 43-72頁
- 佐土原聡編(2010), 『時空間プラットフォーム』, 東京大学出版会
- 佐土原聡・小池文人・嘉田良平・佐藤裕一編(2011), 『里山創生—神奈川県・横浜の挑戦』 創森社
- 清水雅貴(2009), 「森林・水源環境税の政策手段分析—神奈川県の水源環境税を素材に」 諸富徹編著

- 『環境政策のポリシー・ミックス』, ミネルヴァ書房, 245-261 頁
- 清水雅貴(2012), 「神奈川県水源環境税による施策の検証と課題」, 諸富徹・沼尾波子編『水と森の財政学』, 日本経済評論社, 133-158 頁
- 其田茂樹・清水雅貴(2008), 「地方環境税としての住民税超過課税の活用」, 『財政研究』第4巻, 304-319 頁
- 其田茂樹(2012), 「地方分権一括法と法定外税・超過課税の活用」, 諸富徹・沼尾波子編『水と森の財政学』, 日本経済評論社, 109-132 頁
- 高井正(2012), 「森林保全税政策の形成と全国展開」, 諸富徹・沼尾波子編『水と森の財政学』, 日本経済評論社, 73-108 頁
- 高井正(2013), 『地方独自課税の理論と現実: 神奈川・水源環境税を事例に』, 日本経済評論社
- 竹本太郎・安藤輝行・芳賀大地・小川拓哉・志村太郎・小松朋代ほか(2009), 『森林環境税の運用と評価に関する基礎研究—特に人口集中都市における事例研究を中心に—』, (財) 林業経済研究所, 103 頁
- 竹本太郎・小川拓哉・小松朋代(2012), 「神奈川県「水源環境保全・再生のための個人県民税の超過課税措置」に対する県民の認識」, 『関東森林研究』62, 5-8 頁
- 吉田謙太郎(2003), 「表明選好法を活用した模擬住民投票による水源環境税の需要分析」, 『農村計画学会誌』22(3), 188-196 頁
- 吉田謙太郎(2004), 「環境政策立案のための環境経済分析の役割—地方環境税と湖沼水質保全」, 『季刊家計経済研究』63号, 22-31 頁
- 吉田謙太郎(2004), 「地方環境税導入時における住民参加手法としての環境評価利用—神奈川県水源環境税を事例として—」, 『環境経済・政策学会和文年報』9号, 195-208 頁
- 吉田謙太郎(2004), 「地方環境税導入のための環境便益移転可能性の実証分析」, 『都市計画論文集』39, 3, 571-576 頁